

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成15年度病虫害発生予報第3号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成15年度病虫害発生予報第3号（6月）

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
水稲	いもち病	-	並
	萎縮病	-	やや少ない
	ツマグロヨコバイ	並	並
	縞葉枯病	-	やや多い
	ヒメトビウンカ	並	並
	イネミスゾウムシ	並	並

【普通作物 - 水稲】

1 いもち病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、早期水稲における葉いもちの発生は認められなかった。

イ 気象予報では6月の平均気温は平年より高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 苗いもちが発生した場合は、ビーム水和剤75の500～1,000倍液を1箱当り500ml灌注する。

イ 補植用の置き苗は、葉いもちの伝染源になりやすいので早めに処分する。

2 萎縮病（ツマグロヨコバイ）

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア エライザ法による検定の結果、イネ萎縮ウイルス保毒虫率は0%（平年：0.8%、前年：0.1%）であった。（詳細は平成15年度病害

虫発生予報第2号参照)

イ 5月5半旬調査の結果、早期水稲における萎縮病の発病は認められず、10株払い落とし成幼虫数は、平均0.6頭(平年:0.9頭、前年:3.9頭)であった。

ウ 畦畔におけるツマグロヨコバイの片振り20回すくい取り成幼虫数は平年より少なかった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 萎縮病の常習発生地を除き、防除の必要はない。

イ 防除薬剤は「平成15年度普通作物病害虫防除基準」を参照する。
(以下の病害虫についても同様)

3 縞葉枯病(ヒメトビウンカ)

(1) 予報の内容

発生量: 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア エライザ法による検定の結果、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平均4.6%(平年:0.4%、前年:1.2%)であった。(詳細は平成15年度病害虫発生予報第2号参照)

イ 小麦ほ場におけるヒメトビウンカの片振り20回すくい取り成幼虫数は平年よりやや少ないが、畦畔では平年並であった。

ウ 5月5半旬調査の結果、早期水稲では縞葉枯病の発病は認められず、10株払い落とし成幼虫数は、平均0.1頭(平年:0.3頭、前年:1.4頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

本田侵入後の感染防止対策としては、育苗箱施薬が有効である。

4 イネミズゾウムシ

(1) 予報の内容

発生量: 平年・前年並

(2) 予報の根拠

5月5半旬調査の結果、早期水稲では50株当たりの成虫数は平均4.3頭(平年:4.2頭、前年:3.4頭)で、食害株率は平均35.3%(平年:43.9%、前年:46.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 早期水稲では間断灌水及び中干しを徹底し、被害の回避を図る。

イ 早期水稲での発生が多かった地域では、早植田での発生に留意し、発生が多い場合は、アに準じた管理を行い被害を防止する。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 黒点病 ミカンハダニ アブラムシ類	並 - 並 並	並 並 並 並
ナシ	黒星病 ハダニ類 アブラムシ類	並 やや多い やや少ない	並 やや多い やや少ない
ブドウ	黒とう病 べと病	やや少ない 並	やや少ない 並
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	並 並 多い -	並 並 多い 並
イチジク	アザミウマ類 1	並	並
スモモ、モモ ナシ、カキ、 カンキツ等	カメムシ類	やや少ない	やや少ない

1 発生状況及び発生予想は、前年までの9か年の平均値を平年値とした。

【果 樹】

1 カンキツのそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、発病葉率は平均0.7%（平年：1.0%、前年：0.5%）、発病ほ場率は36.8%（平年：42.5%、前年：35.0%）であった。

イ 気象予報では6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 果実では、落花直後～指頭大期頃に降雨が多いと発病するので、この時期に薬剤防除を行う。

イ 防除薬剤は「平成15年度果樹病虫害防除基準」を参照する。（この項は以下の病虫害についても同様）

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、寄生葉率は平均4.2%（平年：10.2%、前年：8.8%）、発生ほ場率は47.4%（平年：43.6%、前年：55.0%）であった。

イ 気象予報では6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 6月に高度精製マシン油乳剤を散布する。本剤は高密度時には十分な効果が得られないので、発生密度が高くなる前に散布する。また、落花期以降にデラン剤を散布した園地は、デラン散布後1か月以内に本剤を散布すると薬害を生じるので使用しない。

イ 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

3 ナシの黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、発病果率は平均0.1%（平年：0.5%、前年：1.1%）、発生ほ場率は6.3%（平年：15.1%、前年：25.0%）であった。

イ 気象予報では6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病葉や発病果実は発生源となるので、できる限り取り除き処分する。

イ 同一系統薬剤使用による薬剤感受性の低下を避けるため、E B I剤の連続散布を避け、他の系統薬剤とのローテーション散布を行う。

4 ブドウの黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、発病葉率は0.4%（平年：1.2%、前年：1.3%）、発病ほ場率は21.4%（平年：27.2%、前年：42.9%）であった。

イ 気象予報では6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉及び罹病果は発生源となるので、できる限り取り除き処分する。

イ 発生園は早めに袋かけを実施する。

5 カキの炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、発病枝率は平均0.4%（平年：0.8%、前年：0.3%）、発病ほ場率は17.6%（平年：23.4%、前年：11.8%）であった。

イ 気象予報では6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

罹病枝は発生源になるので、取り除き処分する。

6 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、寄生枝率は平均8.3%（平年：1.0%、前年：2.5%）、発生ほ場率は76.5%（平年：32.3%、前年：64.7%）であった。

イ 気象予報では6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第1世代幼虫出現期である6月上旬に1回目の防除を行う。更に10日後に2回目の防除を行う。

イ 枝の重なり合っているところは薬剤がかかり難いので、防除を行う前に枝の整理を行う。

ウ 本虫は、薬剤がかかり難い部位に多く寄生している所以、散布むらのないよう十分な薬量で丁寧に防除する。

7 イチジクのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年（前9か年平均）・前年並

(2) 予報の根拠

ア 県農業総合試験場豊前分場に設置した誘引剤での誘殺総数は、5月5半旬までで843頭（9か年平均：1467頭、前年：1480頭）であったが、5月6半旬の誘殺数は増加傾向にある。

イ 気象予報では6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

園地周辺の畦畔等で、6～8月に開花する雑草に発生するので除草に努める。

- 8 スモモ、モモ、ナシ、カキ、カンキツ等のカメムシ類
- (1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少なく、前年より少ない
- (2) 予報の根拠
- ア 4月1半旬～5月5半旬までの予察灯での誘殺総数（調査地点：筑紫野市吉木）
- | | | |
|------------|-----|--------------------|
| チャバネアオカメムシ | 19頭 | （平年：790頭、前年：4319頭） |
| ツヤアオカメムシ | 18頭 | （平年：537頭、前年：4388頭） |
- イ 4月1半旬～5月5半旬までの集合フェロモントラップでの誘殺総数（調査地点：筑紫野市吉木）
- | | | |
|------------|------|-------------------------|
| チャバネアオカメムシ | 253頭 | （前6か年平均：1417頭、前年：5415頭） |
| ツヤアオカメムシ | 17頭 | （前6か年平均：437頭、前年：1834頭） |
- ウ 5月5半旬のナシ園の調査では、被害は発生していない（被害果率平年：0.1%、前年：0.3%）。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 発生が少ないので、他の害虫との同時防除を行う。
- イ 合成ピレスロイド系薬剤は天敵類に対する影響が大きく、カイガラムシ類やハダニ類にリサ-ジェンスを引き起こすことがあるので、発生量の少ない時は使用を控える。
- (4) その他
- 越冬量と今年のヒノキの球果の結実状況からみて、本年の発生パターンは後期発生型（8～10月）になるものと思われる。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病 もち病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	並 並 少ない 並 並 やや少ない	やや多い 並 やや少ない 並 並 やや少ない

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬の調査では、発生は認められなかったが、その後、山間地域の茶園では発生が認められている。(1㎡当たり病葉数 平年：0.2葉、前年：0葉)

イ 気象予報では、6月の平均気温は平年より高く、降水量及び日照量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 摘採残葉での発生に注意し、萌芽から1～2葉期までに薬剤防除を実施する。

イ 本病は雨滴により胞子が飛散伝搬するので、降雨前の防除が効果が大きい。

ウ 防除薬剤は「平成15年度茶・いぐさ病虫害防除基準」を参照し、本病害の薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、複数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。(この項は以下の病虫害についても同様)

2 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

5月2半旬の調査では、寄生葉率は平均0.2%(平年：8.6%、前年：1.9%)で、50葉当たり寄生虫数は平均0.1頭(平年：20.1頭、前年：4.1頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

3 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年並

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬の調査結果、1㎡当たり巻葉数は0.01葉(平年：0葉、前年：0葉)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺数（4月1半旬～5月5半旬）は、筑後市では355頭（前9か年平均：424頭、前年：481頭）、八女市では270頭（前9か年平均：144頭、前年：142頭）であった。第1世代成虫の誘殺は5月5半旬までは認められていないため、第1世代成虫の発蛾最盛期は、平年並の6月2～4半旬と考えられる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場での成虫発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

4 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

5月2半旬のたたき落とし法による調査結果、平均0.2頭（平年：0.2頭、前年：0.2頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし法（A4版白紙上）で4頭以上発生している場合は防除を行う。

5 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

5月2半旬のたたき落とし法による調査結果、平均0.1頭（平年：4.3頭、前年：11.8頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし法（A4版白紙上）で10頭以上発生している場合は防除を行う。

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	少ない 並 並 並 並	少ない 並 並 並 並
ネギ	シロイチモジヨトウ	少ない	やや少ない

はフェロモントラップによる誘殺虫数である。

1 アスパラガスの斑点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発病株率は0%（平年：8.2%、前年：12.4%）であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤防除を徹底する。

2 アスパラガスのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、寄生株率は平均11.7%（平年：15.9%、前年：13.9%）であった。一部のほ場では多発している。

イ 気象予報では、6月の平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 同一薬剤の連続散布によるアブラムシの感受性の低下を避けるため、複数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。

3 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、寄生株率は平均47.2%（平年：49.7%、前年：42.2%）であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 同一薬剤の連続散布によるアザミウマ類の感受性の低下を避けるため、複数系統の薬剤を組み込んだロ - テ - ション散布を行う。

4 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 朝倉町長湊の5月2半旬～5半旬のフェロモントラップによる誘殺虫数は6頭（平年：23.6頭、前年：36頭）であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

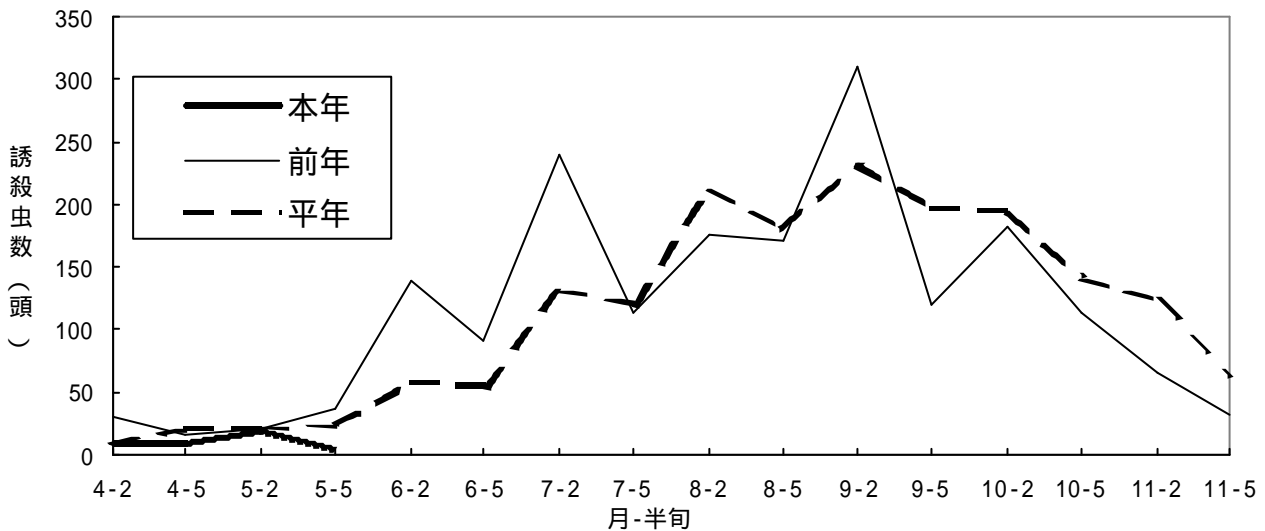
ア 本年は、誘殺虫数が平年より少なく推移しているが、今後の発生動向には注意が必要である。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫は、葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見かけたら、直ちに除去する。

オ 同一薬剤の連続散布によるシロイチモジヨトウの感受性の低下を避けるため、複数系統の薬剤を組み込んだロ - テ - ション散布を行う。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数の推移 (朝倉町長湊)

6月の気象予報（1か月）

（予報期間 5月31日～6月30日）

2003年5月30日
福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は高い、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

【要素別確率】 （単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	30	50
降水量	20	50	30
日照時間	20	50	30

- < 1週目の予報 > 5月31日～6月6日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 6月7日～6月13日
この期間の平均気温は、高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 6月14日～6月27日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
22.6	266.7	154.9	21.3	22.1	23.1

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

www.jpnpn.ne.jp/fukuoka.
kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp